

- 06 枝の中にも「グラデーションツール」で色づけして、小花を飾っていきましょう。

実際の枝振りを見ながら、枝先に花を飾り、違和感のないようにレイアウトします。花は枝につけすぎないように、メリハリを効かせて視かせていきましょう。



- 07 ここからは書道風の文字を作成します。

Illustratorで作成します。書道風の文字はカリグラフィといい、「ブラシ」の中にカリグラフィ効果があります。フォントのアウトラインに線分を加えて、その線分にブラシ効果を見せれば、まるで書道で書いたかのような効果が得られます。線分の太さは、レイアウトする大きさにもよりますが、あまりに太くしないほうが筆足が自然で繊細な文字デザインができます。



one point

カリグラフィ化するフォントは、明朝体を選ぶと、書道らしく見えます。

- 08 ハンコを作っていきます。

Illustratorの「角丸長方形ツール」の枠を作成し、「ブラシ」パネルから細めのブラシを指定します。



- 09 文字を入力します。

【文字ツール】で文字を入力したら、Photoshopにもっていき、【フィルター】メニュー→【スタンプ】で透彫りしたハンコの書道風を出します。ハンコ風の文字はくっつき気味に組むと、ハンコのじんだような風合いを出すことができます。



- 10 背景に重ねて完成です。

背景ポスターを重ね、【レイヤー】パネルで【描画モード：乗算】で重ね、レイアウトを調整したらできあがりです。

FIN



ILLUSTRATOR LESSON

01 余白 - インパクト	
02 余白 - 上品	
03 整列	
04 四分割	
05 枠線	
06 マルチカラー	
07 バナーデザイン	
08 ネオン効果	
09 グリッド配置	
10 ジャンプ率	
11 グラデーション	
12 飾り野	
13 遊び心	
14 補色対比	
15 ゴシック体	
16 文字の箱組み	
17 リズム感	
18 角判写真	
19 グリッドシステム	
20 フォント組み合わせ	
21 ジャンプ率文字	
22 モノトーン写真	
23 アナログ的スタンプ	
24 ゆるかわトリミング	
25 文字メインポスタ	
26 色相調和	
27 モノトーン色相	
28 行揃えの対比	
29 柔らかい文字	
30 文字メイン	
31 飾りフォント	
32 文字選択的	
33 文字デザイン	
34 和風の配色	
35 モノトーンインパクト	
36 コントラスト文字	
37 ライン活用	
38 インパクト見出し	
39 落ち着いた見出し	
40 ヘビータイトル	
41 フォントアレンジ	
42 質感プラス	
43 ---	
44 大胆トリミング	
45 洗練雰囲気	
46 ---	
47 テクスチャ	
48 ビジュアル	
49 立体的な装飾	
50 ワンポイント	
51 エンボス効果	
52 地紋	
53 3D 効果	
54 3D 質感	
55 回転体	
56 和風	

56

高級感のある
和風のポスター

和風のデザインを作るときは、筆のタッチを生かしたり、「地紋」「花びら」「ハンコ」を利用するとそれらしくまとまります。

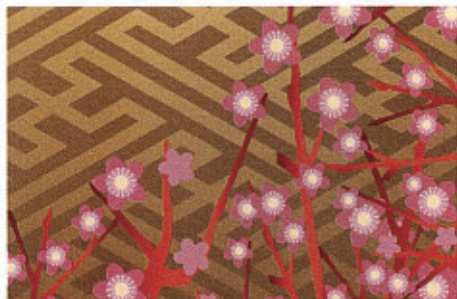
APPLICATION: **Ai** Illustrator CS5 **Ps** Photoshop CS5
CREATOR: Junko Komori (Sasquatch Design Inc.)



基本ルール

グラデーションで作るゴールドと小花

和風のイメージは歩間違えるとデザインが淋しくなる傾向がありますが、全屏風のようなイメージや、小花や判子をプラスすれば高級感と華やかさを感じさせることができます。金をイメージさせるにはグラデーションが大事ですが、CMYKにはゴールドという色の指定はありません。ゴールドに見えるかどうかはグラデーションで、色ベタの面をどう光らせるかが重要です。同様に小花の風合いをリアルに出したいときも、自然な輝きに見えるグラデーションにすることを心がけましょう。



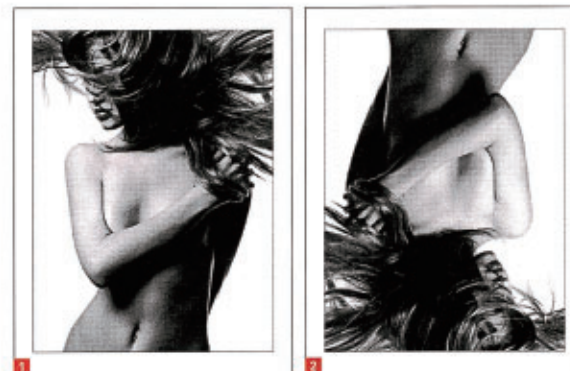
01 Illustratorでゴールドの下地を作っていきます。

Illustratorを開き、ベタ面にグラデーションを使って全屏風をイメージした背景面を作成します。グラデーションを[円形グラデーション]に指定して、ゴールド色らしく中央部が光るように指定しましょう 1 2 3 4 5 6。



01 紙面のサイズを決めて、画像を配置し、マスクを作成します。

Illustratorで新規ファイルを作成し、[ファイル]メニュー→[配置]を選択します。[オブジェクト]メニュー→[重ね順]→[最前面へ]を選択します。紙面のサイズになる長方形を、[長方形ツール]で作成し、画像と長方形両方を選択して、[Ctrl]+[Z]でマスクを作成します。[オブジェクトツール]→[回転]→[180°]で反転させます 1 2。



02 通常より小さくした版面を作成しましょう。

[塗り]を[白]に設定し、[長方形ツール]で長方形を作成します。作成した長方形と、最初に設定した長方形を選択し、[整理]パネルで、[水平方向中央に配置][垂直方向中央に配置]をクリックして真ん中に設定します 3。



03 文字を版面の外側に配置します。

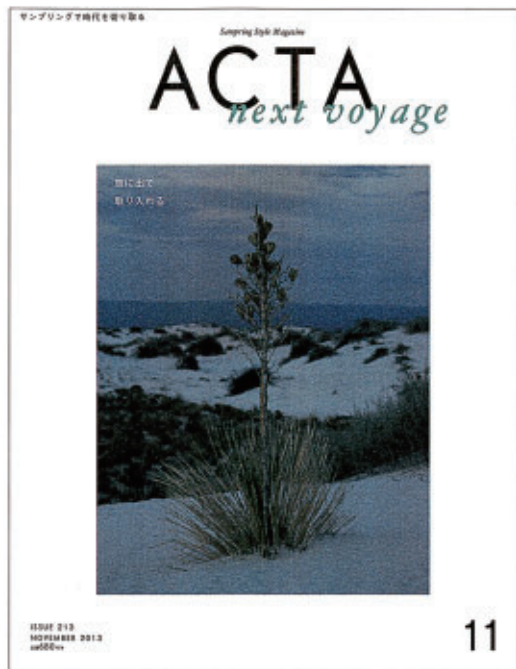
タイトル等の文字を[文字ツール]で作成し、配置します。版面の上のラインや、横のラインに揃えて配置することですっきりまとまります 4。

04 版面として設定した長方形内部に本文を配置して完成です。

長方形を選択したら、[Ctrl]+[Z]、[Ctrl]+[Z]+[Z]で同じ位置に複製します。[Ctrl]+[Z]+[X]を押して、[環境設定]ダイアログの[一般]で、[キー入力:10mm]としてから、側面のラインを[ダイレクト選択ツール]で選択し、矢印キーを押して、内側に10mm小さくします。同様にして内側に10mm小さい長方形を作ったら、[Ctrl]+[Z]+[Z]でガイドにします。余白部分が写真や文字でうるさいので、版面部分の余白は大きめにしています。ガイドに沿って写真や本文を配置したら、完成です 5。

FIN





余白を活用して 上品なデザインに仕上げる

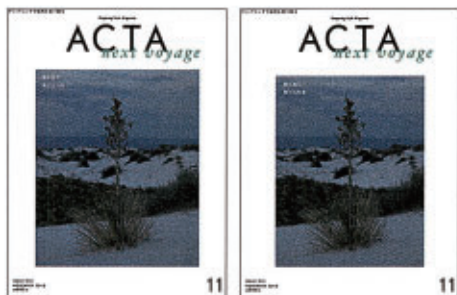
雑誌の表紙風デザインを仕上げていきます。

APPLICATION: **Ai** Illustrator CS6/5.5 CREATOR: Masaya Eiraku

02

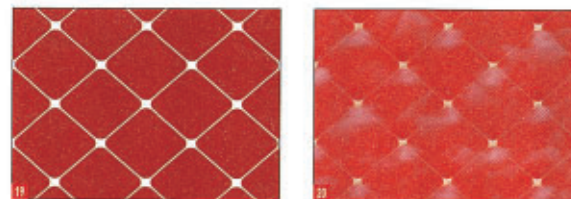
適切な余白を入れる

余白のとりで、デザインの印象はまったく変わります。デザイン初心者は余白を恐れて、意味なく情報をいっぱい取ってしまうことがあるようですが、デザインの目的を考えながら、適切な余白をとっていくと洗練された強い印象を与えるデザインにすることができるでしょう。ただし余白のとりは難易度が高いのでいろいろと試行錯誤し、検証していく作業が必要です。



- 05 書き出したPSDデータでキルトの元を読み込みます。

読み込んだキルトレイヤーの背面に、新規レイヤーを作成配置し、同じ赤（色相 M100 Y100）で塗りつぶします。これはパターンとの隙間のバックから黒く、白色を見えなくするためです。



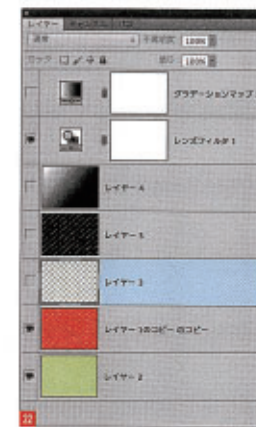
- 06 織り目のレイヤーに立体感をつけます。

織り目だけの線分レイヤーを選択し、[レイヤー]→[レイヤースタイル]→[ペベルとエンボス]を設定します。



- 07 ハイライトのマスクを作っていきます。

出来上がったイメージを別名で保存にて保存し、改めて読み込みます。レイヤーは統合しておきましょう。ハイライトマスクを作るため、読み込まれたイメージに対して [イメージ]メニュー→[色調補正]→[影度を下げる]にて、いったんモノクロ画像にします。



- 08 [イメージ]メニュー→[色調補正]→[露光量]を選択し露光量とガンマを設定します。

できあがったハイライトマスクをコピーアンドペーストでキルトにペーストします。

- 09 ハイライトマスクをレイヤーパネルの [描画モード: スクリーン] で合成します。

これによりキルトのハイライトがより強調され、サテンの布の織り目当たる、寝みの風合いになります。自然に光るようにするとリアルになります。



- 10 最終的に色調整を行うためのレイヤーを作成します。

[イメージ]メニュー→[色調補正]→[レンズフィルター]を選択し、数値を設定します。

- 11 Illustrator上でレイアウトして完成です。

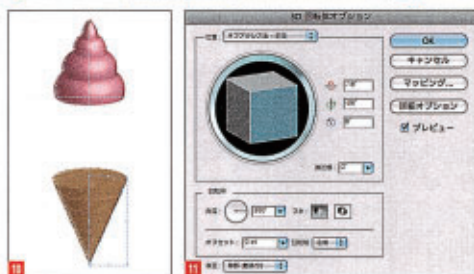
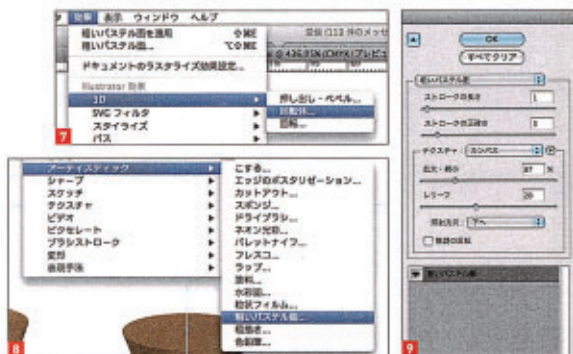
ディテールの風合いを邪魔しないように、フォントは透明化を開けておきましょう。

FIN



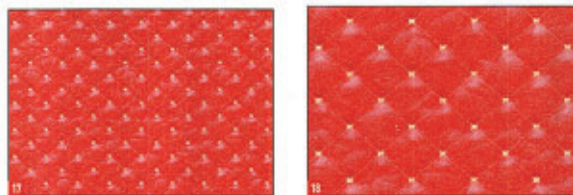
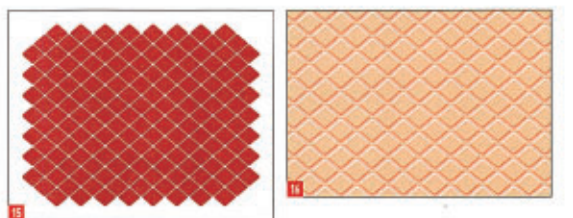
02 少しデジタル感が強いので、フィルター効果をかけます。

[効果]→[アーティスティック]→[粗いパステル画]で、手描き風の残るアナログタッチにします。同様に、コーンの部分も作成し、三色のソフトクリームを作成しました。



03 ここからはキルトのようなふっくらとした質感の背景地を作っていきます。サテンの布のようなパッチワークの縫い目に、ハイライトの光が効いた演出です。

Illustratorで[長方形ツール]をダブルクリックし、[20mm]の赤の正方形を作成します。1mmの溝を作成したいので、[オブジェクト]メニュー→[変形]→[移動]で[水平方向:21mm]、[コピー]を選択します。[Alt]+[Ctrl]+[D]で繰り返し処理ができます。縦に30個、横に50個で、パターンを敷き詰めます。この1mmの溝は縫い目になります。[オブジェクト]メニュー→[変形]→[回転]で45度に回転させ、[変形]→[拡大・縮小]の[垂直方向]を[85%]にして平体にします。ペタ面の角を[効果]メニュー→[スタイライズ]から[角を丸く]でエッジの丸みを3mm設定します。キルトの縫い目のようなラインを[パスツール]で作ります。縫い目のような等間隔のイメージなので、あまり線分を長くしないことが大切です。[線]ウィンドウで線分[破線][丸型先端]にしIllustratorの作業は完了です。

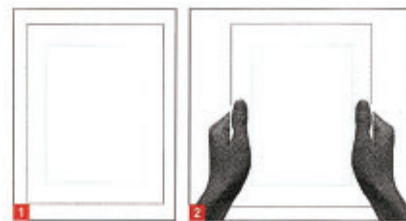


04 [ファイル]メニュー→[書き出し]で、PSD形式に保存します。

書き出し時には[レイヤーを保持]にチェックしてください。

01 デザインの用途から、デザイン面を考えます。

今回は雑誌の表紙デザインという想定です。まずは中心となる写真をレイアウトする領域を決めます。この領域は、デザイン面から発想したのではなく、雑誌のように雑誌を両手で持ったときに、覆れない範囲を元に決めました。デザインする対象がどういった風に使われるものなのかという点から発想することも大切です。



02 タイトルを入れていきます。

雑誌のタイトルを考える際には、書店やコンビニエンスストアで陳列される場合のことも考えねばなりません。本が重なる棚でも、きちんと見えるよう、上方に寄せてレイアウトすることが必要です。今回のタイトルのフォントは「MOGROMAJA Medium」、サブタイトルは「Hoefler Text Italic」を使用しています。



03 写真を入れてみましょう。

今回は「上品なレイアウト」を目指しています。周りの余白をうまく使って目立たせることを目指しました。[ファイル]メニュー→[配置]で画像を選択し、[リンク]にチェックを入れて、写真データを配置しましょう。



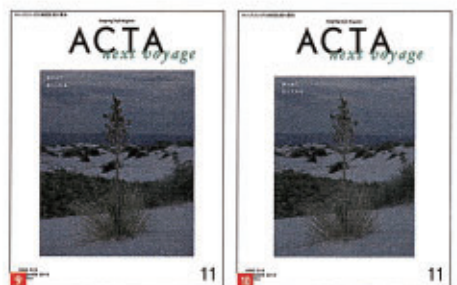
04 コピーをレイアウトします。

[中ゴシックBBB] [10pt]でキャッチフレーズを入力します。考え方はタイトルと同じで、縦列時に見えやすいような配置をします。視線の移動する方向を考えると、タイトルよりも左手にあるほうがよいでしょう。他の必要情報も入力し、レイアウトしていきます。



05 バランスを確認し、余白を決めていきます。

写真の横幅を少し狭め、メリハリをつけることにしました。写真画像上で[長方形ツール]で、小さくしたい形状を作ります。写真画像と作成した長方形を選択して、[オブジェクトツール]→[クリッピングマスク]→[作成]で、適切な画像サイズにしてみました。修正前の状態では、写真の両サイドの余白が異なるだけですが、印象が変わっています。最適な余白のバランスを見つけてみましょう。



FIN